

# Comparison of culture and aesthetic sense on dyeing of stencil between Okinawa and Mainland of Japan, with special reference to BIN-GATA, ISE-GATA, and AIZU-GATA

\* Tomiko FUJIE, \*\* Harui YOSHIDA

\* University of the Ryukyus, \*\* Former Fukushima College

Keyword: Dyeing of Stencil, Stencil Design, BIN-GATA, AIZU-GATA, ISE-GATA, Culture, Aesthetic Sense

## Purpose and Method

There are some kinds of dyeing of stencil in Japan; namely, BIN-GATA in Okinawa, and ISE-GATA in Mie and AIZU-GATA in Fukushima Prefecture of mainland of Japan. Although dyeing of stencil has many kinds of techniques, the main technique of the dyeing of stencil is to set stencil design carved with figure on cloth; this technique is usually named dyeing of stencil.

The main purpose of this study is to discuss social and cultural background, climate, and aesthetic sense of BIN-GATA to focus on color, figure and technique of dyeing of stencil compared with those in mainland of Japan.

## Study area

The following are the study areas; i.e. Okinawa Island of Okinawa Prefecture (BIN-GATA), Aizuwakamatsu, Tajima and Kitakata of Fukushima Prefecture (AIZU-GATA), and Shiroko and Jike, Suzuka City, Mie Prefecture (ISE-GATA).

## Results

1. BIN-GATA has two carvings with white

and colored fields.

2. BIN-GATA, AIZU-GATA and ISE-GATA have a common technique of Shabari (gauze tension), but a rare technique of BIN-GATA with Itotsuri (thin thread tension) remains in the Chinen Studio of Naha City in Okinawa Island. Figure of BIN-GATA is carved by a dyeing person who uses a stand of a small square rokujyu which is produced by drying and processing of Okinawan tofu (bean curd).

3. Dyeing of stencil in mainland of Japan generally has a single color, but that in Okinawa has mainly many colored dyeing with pigment, such as irosashi (colored printing), irokubari (coloration), kumadori (dark gradation), and nidozuri (twice colored printing), which have been probably influenced by Chinese culture.

4. BIN-GATA is characterized by a gorgeous and figured design, while ISE-GATA is delicate and AIZU-GATA is technical.

## Acknowledgment

This research has been sponsored by the Grant-in-aid for scientific research of the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology during the fiscal years from 2005 through 2007 (assignment number : 175005009)

## 沖縄と本土の型染に関する文化と美意識についての比較研究

### 一紅型、伊勢型、会津（喜多方）型を中心に

琉球大学教育学部 富士栄 登美子  
元福島学院短期大学 吉田 ハルキ

#### 【研究の目的】

型染(dyeing of stencil)といっても技法は多様である。通常、文様を彫った染型(stencil designs)を布に型置きし、文様を染めたものを型染と呼ぶ。

本研究では、沖縄の型染のひとつである紅型と本土の型染の類似点を検討すると共に、とくに色彩や文様などにみられる相違点を検討することにより、紅型の文化的背景と美意識を考察する。

#### 【研究の方法】

沖縄県の沖縄島を中心とした紅型、福島県の会津若松、田島、喜多方を中心とした会津型、および三重県の鈴鹿市白子、寺家を中心とした伊勢型の調査を行い、色彩、技法、文様などの相違点を明らかにし、その中で、紅型のもつ社会的、文化的背景、風土、人々の美意識を総合的に検討する。

#### 【研究の結果】

1. 紅型、伊勢型、会津型は同じ染型ではあるが、沖縄の染型と本土の染型の大きな相違のひとつに、紅型は、白地彫りと染地彫りの両方がひとつの染型に必ず混在していることである。

2. 技法や道具にも相違点がみられる。現在はいずれも紗張りが多いが、紅型には「糸つり」の技法が知念工芸にまだ残っている。紅型の、型を彫るときのは沖縄豆腐を乾燥加工した小さい四角いロクジュウを使って、染土が突彫りで彫る。

3. 本土の型染は、一枚型であれば単色が多い。会津型、伊勢型にしても同様である。これに対して紅型は、顔料を使った多色染である。中国の影響と思われる。紅入色型染を略した紅型、小紋様の小紋紅型などは、「色差し」「色配り」「隈取り」「二度刷り」な

ど多色の色使いである。

4. 文様については、いずれも型染の制約から図案化されるが、紅型は多色のために華やかであり、伊勢型は彫りの専門性が強く繊細で、会津型は風通、常磐紺型、うるみ型にみられるように複数の染型でひとつの文様をつくるなど技巧的である。

5. 沖縄の紅型の特徴的に図案化された文様は、白地彫り・染地彫りの両方をひとつの染型に必ず混在させている。そして伊勢型にもかつてあった「糸つり」の技法が、このことを可能にしている。また、伊勢型から生まれた江戸小紋や中形にみられるような粋好みの美意識でもなく、型友禅のそれともちがう。

これらの特徴を生み出したものは、社会的文化的背景、沖縄の風土、および沖縄の人々が持つ美意識が融合されたことによると考えられる。

本研究は、科学研究費補助金(2005~2007年度、課題番号175005009)を受けていることを申し添えます。

従来の研究では、それぞれ個別に研究がなされてきたが、型染という同形式の染物に関する相互の類似点と相違点を総合的に比較研究した事例は、ほとんどない。このうち紅型に見られる本土からの影響と推測される文様のひとつに、「松に懸かる藤」がみられる。これは清少納言の『枕草子』に、「めでたきもの」として『花房長く咲いた藤の花の、松にかかりたる。』というくだりが紅型の文様に表現されており(富士栄, 1999)、沖縄の紅型が平安時代の本土文化の影響を受けている点で、極めて興味深い文様である。